

「総合的な学習の時間」

開倫塾 塾長 林 明夫

Q 1 . 好きな言葉は何ですか。その意味は何ですか。

A たくさんありますが、とっておきの 3 つをご紹介します。

(1) 「ブルドック魂(だまし)」

この言葉は、中学校（栃木県足利市立山辺中学校）の 2 ～ 3 年生のクラス担任の「岡田忠治先生」から教えて頂いたものです。その意味は、「一度食いついたら離すな」、つまり「一度始めたことは、最後まで貫け」だと私は考えます。

(2) 「一所懸命」

この言葉は、高校（栃木県立足利高校）のマラソン大会の合い言葉（あいことば）として教わりました。「一つの所で命を懸(か)けるくらい熱心にものごとに取り組もう」という意味だと私は考えます。

(3) 「一生勉強、一生青春」

この言葉は、足利市在住で、私の家の近くに住んでいた書家の「相田(あいだ)みつを」先生の書から教わりました。「死ぬ前の日まで勉強しよう、そうすれば一生青春でいられるよ」、そんな意味だと私は考えます。勉強は何のためにするのか考えたことがありますか。人間は何のために生きるかと言えば、より善く生きるため。より善く生きるためには、死ぬ前の日まで勉強することが大事。そう私は考えますので、この言葉が好きです。

* この 3 つの言葉は、いつもいつも私を励ましてくれます。皆さんも、好きな言葉をいくつかノートなどに書き留め、大切に大切にしてくださいね。

Q 2) どうしてこの職業に就こうと思ったのですか。

A 理由は 2 つあります。

(1) 私は大学生（慶應義塾大学法学部法律学科）の時から、司法試験に合格して弁護士になろうと勉強していました。大学を卒業した後も、大学の研究室（司法研究室）の研究生として予備校や学習塾の先生・家庭教師などのアルバイトをしながら勉強していましたが、なかなか合格せず 8 回も失敗してしまいました。そこで、これ以上試験を受けても合格しないと考え、始めたのが学習塾です。つまり、1 つの目の理由は、司法試験に合格しなかったからこの職業に就いたといえます。

(2) ただ、いろいろある職業の中で、学習塾という仕事を選んだのには、もう 1 つの理由があります。私は、法律学科の学生であったときに、犯罪学や刑事政策（犯罪の原因やどうしたら犯罪が少なくなるか）を勉強し、ゼミナール（研究会）に参加。先生やゼミの仲間と何か所かの刑務所や少年院を訪問しました。そこで、刑務所長さんや刑務官の先生方から「ちゃんと勉強さえして

いれば、このようなところに来なくても済んだのに」と何回も言われました。司法試験は落ちましたが、これから仕事をするのなら世の中で少しでも意味のある仕事をしたいと考え、刑務所見学をしたときの刑務所長さんや刑務官の先生方の言葉を思い出し、この教えるという仕事を選びました。

Q 3) 仕事の内容はどのようなもので、仕事のやりがいと苦労はどのようなことですか。

A 開倫塾は、東京の北に位置する北関東3県、つまり栃木県、群馬県、茨城県に44の校舎がある学習塾です。小学1年生から高校3年生までの塾生が6000名、先生と事務職員は全員で350名います。私が今から28年前に創業、つまり仕事として始めた学習塾です。仕事の内容は、「学校教育を補うこと」、つまり学校で不足している勉強を補うことです。

中学3年生は、毎年1000名以上が学んでいます。「自分の行きたい高校が一流校」、これが開倫塾の考えです。全員が自分の行きたい高校への合格を目指し、夏休み直前からかなり勉強をします。やりがいは、受験生は目的がはっきりしていますので、こちらが「一所懸命」に教えれば教えるだけ少しずつではありますが学力が身につく、ほとんどの方が合格するということです。

苦労は、受験生以外は、何のために勉強するのかという勉強する意味がわかっていない人も多いので、勉強する目的、つまり自覚を持ってもらうことです。中には、受験生でも、自分は受験生であるという「自覚」が足りない人がいます。「自覚」をしたからといってすぐにできるわけではないので、先生側としては「促す」しかありません。どう「自覚を促すか」で一番苦労しています。

*ところで、皆さんは「自覚」を持って勉強していますか。

Q 4) 仕事をする中で一番気を使うことは何ですか。

A 相手の立場に立ってものごとを考えているかということです。

私は、小さいながらも会社の経営者ですので、6000名の塾生、12000名の保護者、350名の教職員、約200人のビジネスパートナー、校舎をお借りしている家主さん、教材はじめ仕事の上で必要ないろいろなものを納品して下さる方々、お金を借して下さる銀行、授業料を振り替えて下さる銀行・郵便局・コンビニ、チラシやDMを印刷して下さる広告業・印刷業、教職員の募集を出して下さる新聞社や広告代理店、教職員の健康を支えて下さる産業医、健康診断をして下さる病院、顧問の社会保険労務士、公認会計士、弁護士、開倫塾の校舎のある隣近所、塾生がこれから入学する学校の先生方、今通っている学校の先生方、教員委員会、近くの交番・警察署、消防署などなど…。開倫塾に通って下さる塾生だけではなく、開倫塾を支えて下さっているすべての皆様の立場に立ってものごとを考えているか否か、これに一番気を使います。

*企業の社会的責任が厳しく問われるのが現代の社会です。お金だけもうければよいということはありません。市民社会の中での道徳を守り、法律を守ることが大事です。道徳と法律の枠の中でのみ、自由な活動が許されます。

これは、スポーツと同じです。ありとあらゆるスポーツは、スポーツマンシップ・フェアプレイの精神で、また、競技のルールに従って行わなければなりません。いくらルールに反しないからといっていやしい勝ち方(フェアプレイの精神に反した勝ち方)は、誰からも評価されません。仕事も同じです。道徳をよく守り、法律に反しない範囲で行わなければなりません。

「道徳」とは何かといえ、相手の立場に立って考えることだと私は確信します。皆さんは、どのように考えますか。

Q 5) この仕事に就いてよかったことやつらかったこと、成功談や失敗談などを含めて教訓がありますか。あれば教えてください。

A (1) よかったことは山ほどあります。開倫塾には、「 高い倫理、 高い学力、 高い国際理解、 自己学習能力の育成」という4つの教育目標があります。

高校を卒業した後、仕事に就く方も何人かいますが、大部分は大学や短期大学、専門学校などに進学します。大学などの「高等教育機関」に進学した後の教育や研究に耐えられるだけの「自己学習能力(自分で勉強する能力)」を育てることが開倫塾の最大の使命(mission, ミッション)と考え、毎日の指導をしています。塾生全員とはいえないかもしれませんが、かなり多くの方々が自分で勉強する能力を身につけて大学などに進学してくれること、これが私の最大の喜びです。

(2) つらかったこともたくさんあります。塾生が自分にとっての一流校(つまり自分の行きたい高校)に不合格になった時が一番つらいですね。合格・不合格は、受験生が自分は受験生であるという「自覚を持って」勉強したかどうかでほとんど決まってしまう。勉強で一番大事な本人の「自覚」を促すことができず、不合格になってしまった時が一番つらい。

身近な人が病気で亡くなるのもつらいことです。タバコを吸いすぎて肺ガンで亡くなった人のお葬式でご家族にお会いしたときは、とてもつらい思いをしました。タバコを止めるようにもっと注意すればよかったと、悔やまれてなりませんでした。

* その人やその家族を思い、アドバイスをすべき時はきちんとアドバイスをすることは大事だと思います。

Q 6) 社員として一番必要とする人とは、また、必要としない人とはどのような人ですか。

(1) 相手の立場で考えられる人。約束が守れる人。明るく仕事ができる人。

(2) 几帳面でない人。欠席、遅刻、忘れ物が多い人、文句ばかり言う人。

Q 7) 社会人として身につけてほしいものとは、どのようなものですか。(英語とコンピュータ、専門分野の深い知識は当然身につける。)

(1) 健康(心の健康、身体の健康)を自分で管理する力。

(2) 世の中の動きを知るために新聞を毎日一時間以上読んで、考える力。本を読み考える力。

(3) 勉強の仕方(自己学習能力)。(社会に出てからの方が勉強することは多い。毎日が勉強。)

(4) 多様性をそのまま受け入れる力

* 世界には自分と違った所で生まれ、生活している人々がいます。行動の仕方、考え方が違って驚いたり、拒否したりせず、とりあえずはそのまま受け入れる。そして、トラブルなく人間関係を築き上げる力。

(5) 自立心(自分自身をコントロールできる力)。規範意識。美意識。

(6) 躰(しつけ) 美しい立居振舞い、敬語表現を含む言葉遣い。

(7) 社会のルール(「道徳」と「法律」)

Q 8) 中学生の頃の将来の夢は何であり、どのような生活をしていましたか。

- (1) 弁護士か外交官になること。
- (2) 部活動 (柔道部)。生徒会活動
- (3) 中学校の同級生は一生の友達。(会った人は皆友達)

Q 9) 中学生の時に、熱中したものがありませんでしたか。それは、どのようなものですか。

- (1) 友達とよく話したこと。

Q 10) 中学生の時の得意と不得意教科は何ですか。どのようにしたら得意になるのですか。また、不得意教科をどのようにして改善しましたか。

- (1) 英語と社会と国語は得意科目。教科書を手に入れたらどんどん予習。「わからないことをはっきりして授業に臨む」。授業後は、「音読」と「書き取り練習」。
- (2) 数学と理科が不得意。数学は教科書を予習、授業後は、もう 2 ～ 3 回問題をやり直してから問題集を。「理科」は学年別参考書で勉強。

* 実用英語検定は役に立った。

Q 11) 中学校生活の中での楽しい思い出や失敗したこと等がありましたら教えてください。

- (1) 修学旅行、(2) 柔道部の対外試合 (遠征) (3) 集団縄跳び、(4) 合唱コンクール、
- (5) 陸上 (100 m 走、200 m 走、800 m リレー) の試合には出るが、練習しなかったので……。

Q 12) 中学生の時にやっておいてよかったことは何ですか。また、やっておいた方がよいと思うことは何ですか。

- (1) 本をよく読むこと。(図書館の利用) 新聞をよく読んだこと。
- (2) NHK ラジオ「基礎英語」、「続基礎英語」、「英語会話」での勉強。

* 好きなスポーツや文化活動を 1 つずつつくること。

* 卒業までにクラスの全員と仲良くなること。

Q 13) 中学生の時に、将来やりたいことを考えていましたか。また、高校を決める時に何を参考にしましたか。

- (1) Q 8) と同じ。
- (2) 弁護士か外交官になれるような大学への進学者の多い高校を選択。
- (3) 高校は勉強するためにいくところ。安易な選択をしない。

* 不合格にならないよう睡眠時間以外は勉強する。高校に行っても勉強をし続ける。

Q 14) 自分の夢を叶えるためにはどのようにしたらよいですか。中学生の頃は是非心掛けるべきものがありましたら教えてください。

- (1) 自分の道は自分で切り開く。自分は何のために生きるのか、自分の社会的使命 (mission ミッション) を明確に持つ。「世のため、人のために生きることが自分のためにもなる。」
- (2) 目標達成のためには勉強あるのみ。勉強は社会勉強も含む。自分以外皆「師」。「励まし合う仲間」をもつ。「師匠」と呼べる人をもつ。

(3)「東京」の素晴らしさ、「日本」の素晴らしさ、「ASIA」の素晴らしさを知ること。

(4)「より善く生きる」こと。

Q15)今までで一番つらかったこと、楽しかったこと、思い出に残るエピソードはどんなことですか。

(1)つらいのは「人の死」。親族の死、友人の死。健康第一。いつまでも若々しく生きる。

(2)楽しいのは一所懸命な人の姿を見ること。「自然と精神」に触れること。

以上

Q14)の追記

メモを取り続けること。取ったメモを何回も読み返し身に付けること。

「書き抜き読書ノート」に本を読んで気に入ったところを一行でもよいから書き抜く。折に触れて読む。

外国でも活躍を。英語を完全に身に付ける事。習った文章はすべて暗記(何も見ないで正確に書ける)。

「新聞記事」を気になる事件の見出しを 10 書き抜く。その中の 1 つの記事を切り抜き、コメントをつける。